

# SKYMENU Cloud 活用授業 実践レポート

お名前	桑原有輝	学校名	天草市立河浦小学校(熊本県)
実施学年	5年	教科	社会
単元名	米づくりのさかんな地域(単元をとおしての活用事例)		

## 《学びを深めたいポイント》

- ・生産者の米づくりに対する工夫や努力などを単元導入で予想を立てる時に、友だちと出し合うことで自分にはなかった視点に気づき、学習を進めることができるようにする。
- ・「バズ学習」を行うことで、自分の考えや同じ視点で考えた友だちと意見を交流することで、自分の意見に自信を持たせる。
- ・考えの根拠となる資料を自分で選ぶことができたり、複数の資料を関連付けながら説明したりできるようにする。

## 《SKYMENU Cloud 活用のポイント》

- ・単元導入では、「グループワーク」を活用し、班の代表児童の発表ノートに書き込むようにし、現時点での考えを共有し、色分けするなどして視点の整理を行う。
- ・班で伝え合う時に、「グループワーク」を活用し、班で共有し自分の考えを説明できるようにする。
- ・「米づくりの1年」を調べる際には、「資料置き場」からカードを取り出し、並べ替えを行う。(間違いがあっても並び替え、付け加えが容易にできる。)

## 《実践内容》

	学習活動	SKYMENU Cloud 活用場面	活用のポイント
導入	<b>【単元1時間目】</b> ○米づくりの工夫や努力について、どんな工夫や努力があるのか、これまでの学習や生活経験を基に予想する。		○班の代表児童のノートに書き込む(付箋のように)。 ○文字枠の背景の色を変えて、視点の整理を行う。
展開	<b>【単元4時間目】</b> ○1年間の米づくりについて、「米づくりカレンダー」を作成する。		○資料置き場を活用して、児童が自分の調べ学習のタイミングで取り出すことができるようにする。

	<p>【単元5時間目～】</p> <p>○導入で考えた「米づくりの工夫や努力」が行われているのか、資料を基に調べ学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は「バズ学習」スタイルで行った。</li> <li>・事前の予想を基に、「水の管理」「品種改良」「耕地整理」の3つの視点で、3人グループを組み、それぞれが1つの視点を調べる学習活動を行った。</li> </ul> <p>○同じ視点で調べた人どうして集まり、調べたことを共有し、気になることを話し合ったり、情報に誤りがないかを確認し合ったりする。(写真①)</p> <p>○自分の班の人とグループワークを行い、自分が調べた視点について発表する。(写真②)</p>	 <p>(写真①) 自分で調べたことを持ち寄り、自分の調べたことに付け加えたり、特に大事なことについて応用紙(板書用)にまとめたりしている場面。</p>  <p>(写真②) グループワークで自分の考えを発表している場面。画面上に、「水の管理」「品種改良」「耕地整理」のノートを見ることができる。</p>  <p>同じ視点の人でまとめたものも使って、補足したり確認したりしている。</p>	<p>○自分に必要な資料を選ぶことができるように資料置き場に教科書の挿絵を入れておく。</p> <p>→一人一台端末を活用し始めて二ヶ月目のため、全体でまとめる手法は、アナログで行った。</p> <p>○自分が調べていない視点についても、共有し発表を聞くことで学ぶことができるようにする。</p>
<p>ま と め</p>	<p>【単元10時間目～】</p> <p>○これまで学習したことをもとに、調べて分かったことをまとめる。</p>		<p>○これまで学習したことが発表ノートにまとまっているので、自分が調べたノートを見返し、画面を切り取ったり、コピーしたりして再編集をしてまとめる。</p>

## 《実践を振り返って》

社会では、たくさんの資料の中から情報を探し、整理し、まとめたり、関連付けたりする力を育むことができるようにするために、自分で資料を操作できる(しやすい)というのは絶対条件だと思っている。そこでその資料を端末上で配付することができるのは、タブレットの最大のメリットだと感じた。以前なら人数分コピーをしても白黒であったり、印刷やカットする手間もあたりしたが、データで配付できることで、カラーの資料を簡単に配付し、活用できるようになったことが効果的であった。

学び合いの中で、児童が資料を拡大して見せたり、グループワークをした他の児童のノートから関係づけたりして説明している姿を見ることができ、タブレットならではの学習を見ることができた。